

## パーソナリティ障害・傾向のために ひきこもるケースの特徴

◇自らの能動性を放棄し、家族に依存・寄生することで安定を維持していたり、万能感が強い場合には、本人が支援・治療を拒むことが多い。

◇他者と関わろうとすると心のバランスを失う。

◇治療・支援が行き詰まったり、中断に至ることも多い。

## パーソナリティ障害・傾向のために ひきこもる人への支援とは？

1. 人間関係を安全なものとして体験できること
2. 自己評価が安定すること
3. 万能的な内的世界からの脱出
4. 依存性・寄生性の軽減と能動性の回復

## 家族だけが来談するケースの支援について

小倉 清、下坂幸三、皆川邦直ほか：受診しない思春期・青年期患者と親への対応。思春期青年期精神医学、第3巻1号、1993

近藤直司：本人が受診しないひきこもりケースの家族状況と援助方針について。家族療法研究、第17巻2号、2000

近藤直司、萩原和子、太田咲子：ひきこもりケースの家族支援。精神科臨床サービス、第10巻3号、2010

近藤直司：ひきこもりケースの家族面接－本人に会える以前の家族支援について－。精神療法、第37巻6号、2011

近藤直司：青年期・成人期の発達障害ケースと家族支援。家族療法研究(近刊)

境 泉洋ほか監訳：CRAFT 依存症患者への治療動機付け。金剛出版、2012

## 家族との相談における 情報収集と評価のポイント

### 1. 家族に関すること

(1) 来談者の自我機能：語りの整合性・客観性、自他の境界

(2) 問題解決能力

：家族相談による介入の可能性

想像力、共感性、実行力、一貫性、柔軟性

### 2. 本人に関すること

(1) 本人の言っていること、示す反応

(2) 発達歴、成育歴、生活歴

(3) 問題発現までのストーリー

### 3. 家族関係：家族同士、家族と本人

## 本人が受診・相談を拒否している場合に 家族に勧めている三段階の試み ～家族が社会への橋渡し役になるために～

### ＜第一段階＞

今後の人生について話し合える親子関係を取り戻すことを目標とする。

### ＜第二段階＞

今の生活を変えるために始めるべきこと、あるいは、問題を解決するために自ら受診すること、相談に行くことなど、期限を切って本人に選択を促す。

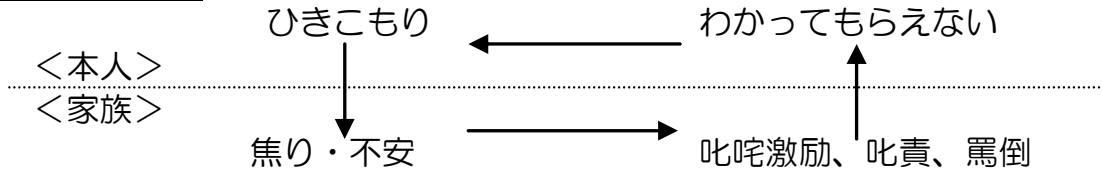
### ＜第三段階＞

上記のいずれも諦めざるを得ないときには、本人と離れて暮らすことや、本人を家から出すことも考えてみる。

## 家族相談の目的と方針

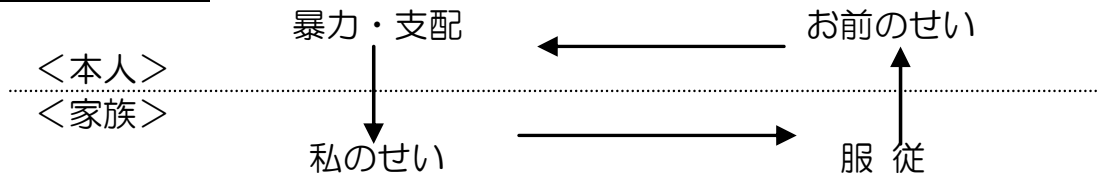
- ①本人に会えるまでのプロセスと捉え、おもに本人が受診・来談する、あるいは訪問・往診を受け入れるまでの手順や手段を話し合う(受診・相談勧奨)。
- ②来談している家族にはたらきかけ、家族システムや家族同士のコミュニケーション・パターンの変化を通して、子どもの問題や行動にも変化を生じさせる  
(システミックなアプローチ)
- ③子どもの心理や精神医学的問題について理解を深め、適切な親役割を果たせるようにはたらきかける  
(心理教育的なアプローチ)
- ④親自身の不安や葛藤について話し合う(洞察的アプローチ)

第1の悪循環



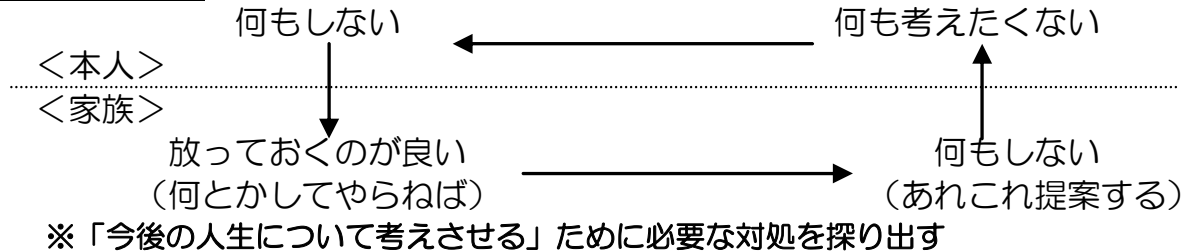
※叱咤激励を控え、緊張関係を緩めることは、初期においては有効であることが多い  
※「わかってあげる」「受け入れてあげる」という助言は要注意！

第2の悪循環



※召使いをやめる決心をしてもらう  
※配偶者や第三者を含めた暴力への対処を探り出す

### 第3の悪循環



### ◇「ひきこもり」の人が起こしたとされる最近の事件

- 04年10月 両親を殺害したとして高校中退後に20年間引きこもっていた東大阪市の男(36)を逮捕。「将来に不安を感じた」と供述
- 11月 両親を鉄アレイで殴って殺害したとして水戸市の男(19)を逮捕。「しつけの厳しい祖父を殺す恐怖を克服するため、先に両親を殺した」と供述
- 同月 両親と姉を刺殺したとして高卒後に自宅に引きこもっていた茨城県土浦市の男(28)を逮捕。「いつか自分が殺されるので、その前に殺そうと思った」と供述
- 06年5月 東京都杉並区で男(33)が両親を殺害後、焼身自殺。男は定職に就かず、引きこもりがちだった
- 08年1月 母親と弟、妹を刺殺したとして小学校時代から引きこもりがちだった青森県八戸市の男(18)を逮捕
- 09年7月 父親を殺害したとして千葉県大多喜町の男(20)を送検。インターネットの掲示板に「今から父、祖母、祖父を殺す」と予告していた
- 9月 妹を刺殺したとして高校中退後に引きこもっていた愛知県春日井市の男(22)を送検。「音がうるさかった」と供述

※年齢は事件当時

毎日新聞 2010年4月17日 中部夕刊

「社会に受け皿がなく 再犯の恐れ」 求刑超す懲役20年  
(毎日新聞 平成24年7月31日付 31面)

※研修内では上記新聞記事の映写を行いました、掲載は差し控えさせていただきます。

## 訪問のリスク

1. 不用意な訪問が本人に与えるダメージ
2. 訪問後に生じる本人から家族への攻撃
3. 家族同士の対立
4. 訪問者に及ぶ危険

## 青年期のひきこもりを予防できるか？

- ①乳幼児期(母子保健、幼稚園・保育園)～学童期
  - ・軽度の知的障害への気づきと能力に合った環境
  - ・内向的・受身的な発達障害の把握と早期支援
  - ・安定した愛着形成(助けを求める、助けを受け入れる)
- ②中学校・高校
  - ・不登校のまま卒業する生徒や中退者に対するケア
  - ・教育システムと相談機関についての情報提供
- ③地域単位の早期介入ネットワークづくり

## ひきこもり問題への対策は総力戦

### <本人に対して>

心理療法、訪問カウンセリング、薬物療法、入院治療グループや宿泊体験、一般就労を目標とする支援  
障害者雇用制度を活用する就労支援、福祉的就労

### <家族に対して>

親ガイダンス、家族療法、親の会・家族教室

### <社会的なアプローチ>

支援体制の強化とアクセスの保障  
スティグマの解消・軽減

## ひきこもり問題に対する行政的課題

1. 家族相談や自宅への訪問から、社会参加までにわたる継続的・包括的な支援体制
2. 中核的な治療・支援機関／ネットワーク支援
3. 危機介入（精神保健福祉法、児童福祉法、少年法）
4. 民間支援団体と公的支援、精神保健福祉専門職が協働する体制づくり
5. 予防的早期支援（母子保健、児童福祉、教育）
6. とくに「アセスメント」が課題

## ひきこもりと周辺の施策

厚生労働省

— 社会・援護局

総務課：ひきこもり地域支援センター

障害保健福祉部：研究、ガイドライン、研修

— 雇用均等・児童家庭局

：ひきこもり等児童宿泊等指導事業

— 職業能力開発局

育成支援課キャリア形成支援室

：地域若者サポートステーション事業

内閣府：子ども・若者総合相談センター